



令和5年度第5回まなびあいサロン

12月8日(金)に、第5回まなびあいサロンを開催いたしました。教育相談保護者や幼稚部保護者、保健福祉機関の方など、5名が参加してくださいました。

テーマ：『子どもたちの進路を考えよう』

講師：聴覚支援学校 高等部 教諭 大橋 昌弘



○現代の子どもたちがなりたい職業と心理

小・中学生がなりたい職業について、ある調査(2022年)では、小学生の1位は「マンガ家・イラストレーター」で、親に勧められた職業の1位は「医者」でした。中学生の1位は「学校・幼稚園の先生」で、親に勧められた職業の1位は「医者」でした。この結果から、親の考えと子どもの考えが違うことが読み取れます。また、割合としては「その他」を選んだ小中学生が一番多く、何になりたいか分からない状況にあることが分かります。自分の経験からどれだけイメージを持っているかが、進路に関係してくると言えます。



○障がい者の就労課題と離職

厚生省の調査(2013年)で、雇用側が手話通訳の配置等コミュニケーション手段について配慮している割合は、12.7%でした。思ったことを速やかに相手に伝えるために、筆談する書く力も必要だと考えます。離職については、「今と別の会社で働いたことがあるか」との問いに、50%超が有ると回答していました。離職の主な理由として、職場環境(賃金、労働条件)や、職場の雰囲気・人間関係等が挙げられています。自分のことや障がいについて、会社の同僚や上司などに理解されているかが不安になると考えられます。



○就労までの目標について

- 自己の理解** ・様々な経験や体験をすることが、自分の個性や障がいを理解したり、生活にいかしたりすることにつながります。趣味や特技、免許や資格取得にもつながっていきます。
- 職業の理解** ・経験が浅いと興味が狭くなり、一定の仕事にしか興味が湧きません。いろいろな経験や体験を通して、進路の選択肢や可能性を広げていくことができます。
- 将来の希望** ・経験や体験が少ないと、周りの情報に流されて漠然とした将来像をもってしまいます。
Ⅱ 「やってみたい」という夢や「認められたい」という思いを大事にいきましょう。
- 就労の目標** (具体的な業種・職種・条件・企業) につながっていきます。



○私たち大人の構え

ヘリコプターペアレントになって、子どもをずっと監視していることはないですか？
子どもの人生はその子の人生です。答えを見つけるのは本人。経験・体験を重ねて、自分で判断できる意志の強さや、自分に自信がもてるような肯定感を育てていきたいものです。



～参加者の感想～

☆子どもが自分で決められるように、たくさんの経験・体験をさせて将来に生かしていけたらいいなと思いました。

☆障がいがある子どもたちに、どんどん経験させよう、どんどん社会を見ていこうという事や、自信もてるようになる歩みが小さい頃からできる事を、伝えていきたいと思いました。

